

令和8年度 薬学部 別表

薬学部 1学年 前期

		科目名	単位	時間数	備考
教養科目	必修	医療サイエンス●	2	48	必修
		基礎コミュニケーション	1	15	
		健康と運動の科学★	1	15	
		アカデミックスキルズ	1	18	
		ドイツ語A	1	15	
		フランス語A	1	15	
		中国語A	1	15	
		日本語文章論A	1	15	
		文学A	1	15	
		美術A	1	15	
		書道A	1	15	
	4科目選択必修	人間と宗教	1	15	
		ジェンダーの社会学	1	15	
		社会関係と自己	1	15	
		民主主義と政治構造	1	15	
		法学	1	15	
		哲学	1	15	
		歴史A	1	15	
		数学A	1	15	
		医療心理学	1	15	
		感染症とバイオセーフティ	1	15	
		異文化コミュニケーション入門	1	15	
		療法的な音楽活動	1	15	
		感性を掘り下げる色彩と造形	1	15	
		医療人のための教養とマナー	1	15	
		富士山の自然と文化	1	15	
資源植物学	1	15			
次世代文章論	1	15			
専門基礎科目	必修	English for Healthcare Communication	1	15	
		薬学物理の基礎	1	22.5	
専門科目	必修	人体の成り立ちと機能I※	1	22.5	

薬学部 1学年 後期

		科目名	単位	時間数	備考
教養科目	必修	人の行動と心理	1	15	必修
		ヒューマニティ	1	15	
		健康とスポーツの科学★	1	15	
		Paragraph Writing	1	13.5	
		ドイツ語B	1	15	
		フランス語B	1	15	
		中国語B	1	15	
		言語学	1	15	
		日本語文章論B	1	15	
		文学B	1	15	
		美術B	1	15	
	4科目選択必修	書道B	1	15	
		医療人としてのコミュニケーション入門	1	15	
		現代ジェンダー論	1	15	
		歴史遺産への招待(京都)	1	24	
		法学	1	15	
		歴史B	1	15	
		ロジカルシンキング	1	15	
		数学B	1	15	
		感染症とバイオセーフティ	1	15	
		死生観	1	15	
		現代社会学	1	15	
		国際政治学	1	15	
		療法的な音楽活動	1	15	
		初年次 スタディ アブロード プログラム★	1	72	
		感性を掘り下げる色彩と造形	1	21	
		国際協力論	1	15	
		デジタルコンテンツの作成と活用	1	15	
		医療人のための教養とマナー	1	15	
		レジェンドと語る	1	15	
		資源植物学	1	15	
		動物解剖生理学	1	15	
		次世代文章論	1	15	
専門基礎科目	必修	チーム医療の基盤	1	15	
		医療統計とデータサイエンス	1	16.5	
専門科目	必修	熱力学・化学平衡I	1	22.5	
		有機化合物の構造と性質	1	22.5	
		人体の成り立ちと機能II※	1	22.5	
		人体の成り立ちと機能III※	1	22.5	
		生命活動を担う分子II	1	22.5	
		初年次臨床体験実習★●	1	84	

教養科目	Essential English for Academic Literacy I	2	34.5	1科目選択必修
	Essential English for Academic Literacy II	2	34.5	
	Essential English for Academic Literacy III	2	34.5	
	Essential English for Academic Literacy IV	2	34.5	
専門基礎科目	地域医療入門	2	30	必修
専門科目	薬学化学の基礎※	2	40.5	
	医療を支える臨床薬剤師※	1	22.5	
	漢方薬になる動植物※	2	36	
	生命活動を担う分子I※	2	36	
	3Dバーチャル解剖学実習★●	0.5	18	

前期必修科目数 11科目
前期必要単位数 12単位

後期必修科目数 16科目
後期必要単位数 16単位

通期必修科目数 7科目/必要単位数 11.5単位
最低履修科目数 34科目/必要単位数 39.5単位

(註1) ★は実習・演習科目

(註2) ●は合否科目(選択科目は全て合否のため省略)

(註3) ※(アスタリスク)は実習・演習を含む科目

薬学部履修要項 別表

昭和医科大学学則 第12条 (単位の計算方法)

授業科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算する。

学年	科目分類	授業形態	科目名	開講期	単位数	必修選択	対象科目
第2学年	専門	講義	生命活動を担う分子Ⅲ	前期前半	1.5	必修	○
	専門	講義	微生物と感染症	前期前半	1.5	必修	○
	専門	講義	化学平衡Ⅱ・臨床分析	前期前半	1.5	必修	○
	専門	講義	熱力学Ⅱ・反応速度論	前期前半	1.5	必修	○
	専門	講義	生命活動を担う分子Ⅳ	前期後半	1.5	必修	○
	専門	講義	有機化合物の性質と反応	前期後半	1.5	必修	○
	専門	講義	健康の維持増進をはかる公衆衛生	前期後半	1.5	必修	○
	専門	講義	薬の作用と生体内運命	前期後半	1.5	必修	○
	専門	講義	生体防御反応を担う組織、細胞、分子	後期前半	1.5	必修	○
	専門	講義	溶液の化学・放射線	後期前半	1.5	必修	○
	専門	講義	薬と疾病1 (臨床所見と疾患推測)	後期前半	1	必修	○
	専門	講義	薬の効き方	後期前半	1.5	必修	○
	専門	講義	薬と疾病2 (悪性腫瘍・感染症)	後期後半	2	必修	○
	専門	講義	薬剤師の社会的使命と法的責任	後期後半	1.5	必修	○
	専門	講義	生態系と環境衛生	後期後半	1.5	必修	○
	基礎	講義	薬学英語の基礎	通期	1	必修	
	専門	演習	在宅チーム医療と倫理TBLⅡ(学部連携)	前期前半	0.5	必修	
	専門	演習	プロフェッショナリズムⅠ	通期	1.5	必修	
	専門	演習	学修技法とスチューデントデベロプメント ※1	通期	—	必修	
	専門	演習	キャリアデザイン ※2	通期	—	必修	
	専門	実習	微生物学実習	前期前半	0.5	必修	
	専門	実習	分析実習	前期前半	0.5	必修	
	専門	実習	物理化学実習	前期前半	0.5	必修	
	専門	実習	有機化学実習	前期後半	0.5	必修	
	専門	実習	臨床から学ぶ①実習	前期後半	1	必修	
	専門	実習	人体の成り立ちと機能実習	前期	0.5	必修	
	専門	実習	環境衛生試験法実習	後期後半	0.5	必修	
	専門	実習	臨床から学ぶ②実習	後期	1	必修	
	専門	実習	薬の効き方①実習	後期	0.5	必修	
合計				履修科目数29科目 (うち2科目は他学年で単位認定) 必要要件単位数31単位			

○ 対象科目(前期8科目、後期7科目):進級試験受験資格判定科目・出題科目

※1 学修技法とスチューデントデベロプメントは、第2学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※2 キャリアデザインは、第2学年から履修し、第5学年において単位を認定する。

単位認定の必要な科目は以下の通りである。

前期必修科目数 15科目

後期必修科目数 10科目

通期必修科目数 2科目

前期必要要件単位数 16単位

後期必要要件単位数 12.5単位

通期必要要件単位数 2.5単位

最低履修科目数 27科目 必要要件単位数 31単位

薬学部履修要項 別表

学年	科目分類	授業形態	科目名	開講期	単位数	必修選択	対象科目
第3学年	専門	講義	生体分子と医薬品の化学	前期前半	1.5	必修	○
	専門	講義	処方箋に基づく調剤の基本 I	前期前半	1.0	必修	○
	専門	講義	栄養と食品衛生	前期前半	1.5	必修	○
	専門	講義	薬と疾病 3 (呼吸器・消化器)	前期前半	2.0	必修	○
	専門	講義	遺伝子とバイオ・細胞医薬品	前期後半	1.5	必修	○
	専門	講義	薬と疾病 4 (神経・精神/POS/神経PBL) *POS (4コマ) のみ前期前半	前期後半*	3.0	必修	○
	専門	講義	医薬品の開発と法規制	前期後半	1.5	必修	○
	専門	講義	薬物の体内動態	前期後半	1.5	必修	○
	専門	講義	分子・細胞から生理・病態へ	後期前半	1.5	必修	○
	専門	講義	処方箋に基づく調剤の基本 II	後期前半	0.5	必修	○
	専門	講義	薬と疾病 5 (循環器/循環器PBL)	後期前半	2.0	必修	○
	専門	講義	機器分析	後期後半	1.5	必修	○
	専門	講義	薬と疾病 6 (代謝・内分泌・泌尿器・生殖器)	後期後半	2.0	必修	○
	専門	講義	製剤の性質と設計	後期後半	1.5	必修	○
	専門	講義	薬学英語	通期	1	必修	
	専門	演習	情報と科学技術を活かす臨床薬剤師 (演習)	後期	1.0	必修	
	専門	演習	薬物動態の解析 (演習)	後期	1.0	必修	
	専門	演習	学部連携チーム医療 P B L II ・在宅ケア	後期	1.5	必修	
	専門	演習	プロフェッショナルリズム II	通期	1.5	必修	
	専門	演習	学修技法とスチューデントデベロプメント ※1	通期	-	必修	
	専門	演習	キャリアデザイン ※2	通期	-	必修	
	専門	演習	基礎・臨床統合薬学演習 ※4	前期	1.5	必修	
	専門	実習	調剤・患者対応入門 実習	前期	1.5	必修	
	専門	実習	食品衛生試験法	前期	0.5	必修	
	専門	実習	製剤化のサイエンス	前期	0.5	必修	
	専門	実習	薬の効き方② (実習)	前期	0.5	必修	
	専門	実習	注射・輸液療法	後期	0.5	必修	
	専門	実習	薬学研究入門 ※3	後期	-	必修	
			合計				履修科目数 27科目 (うち3科目は他学年で単位認定) 必要要件単位数 32.0 単位 基礎・臨床統合薬学演習履修者は、履修科目数28科目 必要要件単位数33.5 単位※4

○ 対象科目(前期8科目、後期6科目):進級試験受験資格判定科目・出題科目

※1 学修技法とスチューデントデベロプメントは、第2学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※2 キャリアデザインは、第2学年から履修し、第5学年において単位を認定する。

※3 薬学研究入門は、第3学年から履修し、第4学年において単位を認定する。

※4 基礎・臨床統合薬学演習は、R7年度以前の第3学年進級生を対象として開講する。

単位認定の必要な科目は以下の通りである。

前期必修科目数 12あるいは13科目※4

後期必修科目数 10科目

前期必要要件単位数 16.5あるいは18.0単位※4

後期必要要件単位数 13.0単位

通期科数 2科目

通期科目単位数 2.5単位

最低履修科目数 24あるいは25 科目 必要要件単位数 32.0あるいは33.5 単位※4

薬学部履修要項 別表

学年	科目分類	授業形態	科目名	開講期	単位数	必修選択	対象科目
第4学年	専門	講義	薬となる化合物の構造と性質	前期	1	必修	○
	専門	講義	分子・細胞から生理・病態へ	前期	1	必修	○
	専門	講義	漢方医学の実践	前期	1	必修	○
	専門	講義	日常生活と健康	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬物送達システム	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(眼・耳鼻咽喉・アレルギー・血液疾患)	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(免疫・関節・小児・皮膚疾患)	前期	1	必修	○
	専門	講義	個別化医療	前期	1	必修	○
	専門	講義	地域医療とプライマリーケア	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬毒物と中毒	前期	1	必修	○
	専門	講義	放射性医薬品の利用と管理	後期	1	必修	○
	専門	演習	学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	前期	1.5	必修	
	専門	演習	EBM演習	前期	1	必修	
	専門	演習	薬と疾病チュートリアル3(がん疾患)	前期	0.5	必修	
	専門	演習	輸液と栄養	前期	0.5	必修	
	専門	演習	実務と基礎の複合演習	後期	1	必修	○
	専門	演習	学修技法とスチューデントデベロップメント ※1	通期	-	必修	
	専門	演習	キャリアデザイン ※2	通期	-	必修	
	専門	実習	薬学研究入門 ※3	前期	6.5	必修	
	専門	実習	臨床実習事前学修	後期	4	必修	
	専門	実習・演習	ファーマシューティカル・ケア・プログラム(PCP) ※4	後期	-	必修	
専門	実習	薬局実習 ※4	後期	-	必修		
合 計				履修科目数22科目 (うち4科目は他学年で単位認定) 必要要件単位数26単位			

○ 対象科目(前期10科目、後期2科目):再試験受験資格判定科目、進級試験対象科目

※1 学修技法とスチューデントデベロップメントは、第2学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※2 キャリアデザインは、第2学年から履修し、第5学年において単位を認定する。

※3 薬学研究入門は、第3学年から履修し、第4学年において単位を認定する。

※4 ファーマシューティカル・ケア・プログラム(PCP)、薬局実習は、第4学年から履修し、第5学年において単位を

単位認定の必要な科目は以下の通りである。

前期必修科目数 15科目

後期必修科目数 3科目

前期必要要件単位数 20単位

後期必要要件単位数 6単位

最低履修科目数 18科目 必要要件単位数 26単位

薬学部履修要項 別表

学年	科目分類	授業形態	科目名	開講期	単位数	必修 選択 ※6	
第5 学年	専門	演習	アドバンスト薬学英語 ※1	後期	-	必修	
	専門	演習	応用薬学演習 ※1	後期	-	必修	
	専門	演習	アドバンスト薬学英会話 ※1	後期	-	自由選択	
	専門	演習	キャリアデザイン ※3	通期	0.5	必修	
	専門	演習	学修技法とスチューデントデベロプメント ※4	通期	-	必修	
	専門	実習	学部連携病棟実習	後期	1	必修	
	専門	実習	薬学研究実践プログラム ※1, 5 症例研究実践コース・臨床研究実践コース・基盤研究実践コース 薬学研究実践プログラムⅠ 薬学研究実践プログラムⅡ 薬学研究実践プログラムⅢ	後期	-	選択必修	
	専門	実習	学部連携地域医療実習 ※1, 5	後期	-	選択	
	専門	実習	海外における薬剤師の役割を知る ※1, 5	後期	-	選択	
	専門	実習・演習	ファーマシューティカル・ケア・プログラム (PCP) ※2	通期	9	必修	
	専門	実習	病院実習 2	通期	11	必修	
	専門	実習	薬局実習 ※2	通期	10	必修	
	合計				最低履修科目数9科目 (うち4科目は他学年で単位認定) 必要要件単位数31.5単位		

※1 応用薬学演習、薬学研究実践プログラム、アドバンスト薬学英語、学部連携地域医療実習、海外における薬剤師の役割を知る、アドバンスト薬学英会話は、第5学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※2 ファーマシューティカル・ケア・プログラム (PCP)、薬局実習は、第4学年から履修し、第5学年において単位を認定する。

※3 キャリアデザインは、第2学年から履修し、第5学年において単位を認定する。

※4 学修技法とスチューデントデベロプメントは、第2学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※5 選択必修科目第5-6学年「薬学研究実践プログラム」及び選択科目第5-6学年「学部連携地域医療実習」、第5-6学年「海外における薬剤師の役割を知る」、第6学年「薬剤師の臨床判断」から履修する。選択科目と選択必修科目の履修の組み合わせを表1に示す。選択科目の履修は、上限を4単位とする。薬学研究実践プログラムと選択科目を合わせ、基本的に16単位を履修する。ただし、薬学研究実践プログラムの期間外に選択科目を受講する場合、計18単位が認定される。

※6 選択必修科目は、そのプログラムより必ず1つを選択する卒業要件に算入する科目である。選択科目は、履修の有無を学生が選択する卒業要件に算入する科目である。自由選択科目は、履修の有無を学生が選択する卒業要件に算入しない科目である。

表1 選択必修科目と選択科目の履修の組み合わせについて

			選択科目の履修		
			なし	1科目	2科目
選択科目	海外における薬剤師の役割を知る	2単位	-	◇	□
	学部連携地域医療実習	2単位	-	◇	□
	薬剤師の臨床判断	2単位	-	◇	□
選択必修 科目	薬学研究実践プログラム	I (16単位)	◎	◎*	-
		II (14単位)	-	◎	◎*
		III (12単位)	-	-	◎
第6学年において認定される単位			16単位	16あるいは 18単位	16あるいは 18単位

◇:いずれか1科目を選択

□:いずれか2科目を選択

-:なし

◎:薬学研究実践プログラムの選択

*:薬学研究実践プログラムの期間外に選択科目を受講する場合

単位認定の必要な科目は以下の通りである。

後期必修科目数 1科目

通期必修科目数 4科目

後期必要要件単位数 1単位

通期必要要件単位数 31.5単位

最低履修科目数 5科目 必要要件単位数 32.5単位

薬学部履修要項 別表

学年	科目分類	授業形態	科目名	開講期	単位数	必修 選択※6
第6学年	専門	演習	アドバンスト薬学英語 ※1	前期	1	必修
	専門	演習	応用薬学演習 ※1	前期	9	必修
	専門	演習	総合薬学演習 ※2	前期	-	-
	専門	演習	アドバンスト薬学英会話 ※1	前期	①	自由選択
	専門	演習	集中講義 ※3	後期	-	-
	専門	演習	学修技法とスチューデントデベロプメント ※4	通期	0.5	必修
	専門	実習	薬剤師の臨床判断 ※5	前期	2	選択
	専門	実習	学部連携地域医療実習 ※1, 5	前期	2	選択
	専門	実習	海外における薬剤師の役割を知る ※1, 5	後期	2	選択
	専門	実習	薬学研究実践プログラム ※1, 5 症例研究実践コース・臨床研究実践コース・ 基盤研究実践コース	通期	-	選択必修
			薬学研究実践プログラムⅠ		16	
			薬学研究実践プログラムⅡ		14	
			薬学研究実践プログラムⅢ		12	
	合計				最低履修科目数	4科目
				必要要件単位数	26.5単位	

<2021年度入学生が卒業までに修得する単位数：195.5単位以上を必要とする>

※1 応用薬学演習、アドバンスト薬学英語、学部連携地域医療実習、薬学研究実践プログラム、アドバンスト薬学英会話、

学部連携地域医療実習、海外における薬剤師の役割を知るは、第5学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※2 総合薬学演習は、卒業に必要な単位を修得済みの学生を対象として開講する。新たな単位は付与しない。

※3 集中講義は、単位認定対象外とする。

※4 学修技法とスチューデントデベロプメントは、第2学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※5 選択必修科目第5-6学年「薬学研究実践プログラム」及び選択科目第5-6学年「学部連携地域医療実習」、第5-6学年「海外における薬剤師の役割を知る」、第6学年「薬剤師の臨床判断」から履修する。選択科目と選択必修科目の履修の組み合わせを表1に示す。選択科目の履修は、上限を4単位とする。薬学研究実践プログラムと選択科目を合わせ、基本的に16単位を履修する。ただし、薬学研究実践プログラムの期間外に選択科目を受講する場合、計18単位が認定される。

※6 選択必修科目は、そのプログラムより必ず1つを選択する卒業要件に算入する科目である。選択科目は、履修の有無を学生が選択する卒業要件に算入する科目である。自由選択科目は、履修の有無を学生が選択する卒業要件に算入しない科目である。

表1 選択必修科目と選択科目の履修の組み合わせについて

			選択科目の履修		
			なし	1科目	2科目
選択科目	海外における薬剤師の役割を知る	2単位	-	◇	□
	学部連携地域医療実習	2単位	-	◇	□
	薬剤師の臨床判断	2単位	-	◇	□
選択必修科目	薬学研究実践プログラム	I (16単位)	◎	◎*	-
		II (14単位)	-	◎	◎*
		III (12単位)	-	-	◎
第6学年において認定される単位			16単位	16あるいは18単位	16あるいは18単位

◇:いずれか1科目を選択

□:いずれか2科目を選択

-:なし

◎:薬学研究実践プログラムの選択

*:薬学研究実践プログラムの期間外に選択科目を受講する場合

単位認定の必要な科目は以下の通りである。

前期必修科目数 2科目以上

通期必修科目数 2科目

前期必要要件単位数 10、12あるいは14単位

通期必要要件単位数 12.5、14.5、あるいは16.5単位

最低履修科目数 4科目 必要要件単位数26.5単位

自由選択科目を除く全ての授業が主要授業科目である